



一宮町長
馬淵 昌也

旅行がお好きな方は多いと思います。旅行の形は、どういったものが良いでしょうか。わたくしが特に面白いと思うのは、一人、或いは少数で、大まかな予定しか立てない旅です。

大まかな予定しか立てないというのは、つまりこの地方へゆこう、ということだけ決めて、あとは現地に行っただけ決めてという形です。これだと、困ることもありますが、想定外の嬉しい展開もあり、旅が忘れがたいものになります。

若い頃、友人達3人で東北へこうした旅に出かけたとき、峠の茶屋で夕方のバスを待っていたら、茶屋の主人が時間を間違えて乗れなかったことがあります。私たちが困っていると、主人は、私たちに向かつて、「悪かったな、この紹介状を持ってゆけ」と、サインペンでチラシの裏に「この人たちを〇〇円で泊めてやってくれ」と書き、山下にある温泉旅館の名を挙げました。正直言って私たちは、冗談だろうとは思っていませんでした。

歩いて山を下りたわたくしたちは、その温泉に着き、尋ねて行っで見ると、指示された旅館は、温泉街一の立派な元湯旅館でした。まさかチラシに記し

た走り書きに効き目があるとは思いませんでしたが、旅館に入っておずおずとおかみさんに差し出すと、おかみさんは、番頭さんに、「〇〇の間はお客さんが入っているの?」「はう」「では、その方々には別の部屋に移って頂いて、こちらをそこにご案内して」と言いました。戻ってきた番頭さんについてゆくと、なんと泊まらされたのは十数畳敷きの立派な部屋でした。こんな展開になるとは、心の底からびっくりしました。

もちろん、これはよい展開のときのことです。いつもうまくゆくとはいりません。泊まる場所を得られず、寒い3月の夜を、三日目を眺めながら野宿をしたこともあります。

いずれにせよ、そうした人生の不透明さを楽しむ旅、それが大まかにしか予定を立てない旅です。そこから得られた経験は、生涯忘れられない深いものとなります。特に、人さまから頂いた情に対し深く感謝する気持ちになります。

今は、通信技術も発達していますので、すべてを細かく決められます。でも、時にはこうした旅も捨てがたいものであると、わたくしは思います。